

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

1. 評価結果の概要

事業所名

あしたりの家

日付 平成 20年 3月 31日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

旧北房町で長く高齢者患者の診療に当たっていた作本院長が、住み慣れ親しんだ人が終末期まで安心して過ごせる所が必要だという考えに、このホームの代表者原社長や地元の関係者が協力して、「医療と介護を一体にしなければ、高齢者は救えない」という思いが実現し、平成14年9月にこのグループホームが開設できた。設立は原さん夫妻と診療所に居た看護師が中心になり、認知症高齢者の介護には経験の少なかった“おばちゃん集団”が集まり、このホームの運営が始まった。当時は、地元の人々からも認知症に対する理解は得られず、遠くの利用者が入所していたが、3年くらい前からようやく地域の人々にもホームの存在が受け入れられ始め、今ではこの地域になくはない施設として定着するようになった。

設立当初から、このホームの特長は「自己表現、自分らしい生活をそれぞれのの人に」ということを具体的に実現してあげていることだろう。よく言葉ではこのようなことを表現するが、このホームでは中途半端ではなく、その人の将来に花を咲かせてあげている。例えば認知症であっても、脳の病気の後遺症があっても、その障害を乗り越えて、それぞれの人の生きざまにまで影響するよう育てていることに感心する。習字を書く人には外部の展覧会で賞を獲得したり、級の資格を貰ったりするところまで頑張る。外部の人に見てもらえる演劇団を利用者と職員で構成して見てもらう。慰問してもらうだけでなく、自分等の力量を披露して、人に喜んでもらえて、自分たちのやり甲斐や生き甲斐を実感する。そしてまた、頑張ろうとする意欲を湧かせることに繋がっている。又、自分で歩こう、自分で食べよう、自分で排泄できるようになりたいという生活行動を自ら改善して、生き甲斐を見出せるよう努力している姿がある。演劇の小道具や大道具をつくり、公演のバリエーションを高める作品作りに精を出す人もいる。編み物、縫物でホームの中や公演の下支えをする人もいる。自分の人生は自分の力で開いていこうとする根性を見ることができる。

もう一つの特長は、職員が安定していることである。最初は素人集団であったが、自己研鑽を重ね、介護福祉士、介護支援専門員、看護師、調理師、保育士、ヘルパー等有資格者の集団になり、介護のプロ集団に変革した。それに上回っているのが、人間味豊かさである。仕事らしくなく、自然な生活に馴染んで、利用者を支えていることであろう。他の事業所に行っても「あの人、あしたりの家に居た」と言ってもらえるようにしたい

利用者や職員の行動に2ユニットの垣根がなく、2つの空間をいつも行き来している姿が見える。生活は各ユニットでしているが、行動は全体に行き渡っている。利用者や職員の心を大きくしている源だろうと思った。

特に改善の余地があると思われる点

認知症になっても意欲的に一つの事に没頭出来る事は、感情を伴った行動があれば不可能ではないと思う。コミュニケーションと記憶においても同じだと思う。是非、演劇等を通して認知症の人の生き甲斐を見い出すことの体験を続けて行って欲しい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：“生活感のある利用者本意の暮らし”の理念が、ホームの実際の生活の中で実現しているのが実感されているので、更に理念に掲げた精神を毎年一つひとつ具体化していけば良いと思う。</p> <p>2、全体的に見て…：“敬愛”の精神で「やすらぎ・希望・安心」の心を根幹として、利用者の人生を大切に、有する能力に応じ自立した日常生活を家庭的な雰囲気の中で営むよう、利用者の自己実現を目指している。</p> <p>利用者の自己実現とは、その人らしく生きるということに繋がっている。利用者の得意なことを見つけ、その技を伸ばしてあげることに力を注いでいることが良く分かる。そして、職員の気持ち一つになって、利用者の幸せを実現しようとしている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：リビングルームは年が経つ毎に生活感が漂っているなあと感じる。利用者の個人及び団体でつくる作品も高度になって、利用者の努力が理解できる。居室は部屋毎に異なる味があり、掃き出し窓の大きな開口部からは、ホーム全体に心地良い空気が注がれる。このようなハード面では改善事項は必要ない。</p> <p>2、全体的に見て…：外へ出れば田園地帯で、四季折々の風情を楽しみながら散歩に出掛ける。歩く人も車椅子で行く人も安心して歩けるコースである。2つのユニットを利用者と職員が行き交うと、ハードの空間が人の行き交う姿で躍動感のある空間に育ってきた。ホームの外回りも広々として、プランターに花が咲く。そこに小規模多機能ホームが併設されると、介護福祉の花が咲く。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1、自主評価について…：特に改善事項はない。利用者それぞれに自分らしく生きることをモットーに掲げ、その得意技を磨いていくケアをしていることは利用者への最高のプレゼントである。</p> <p>2、全体的に見て…：グループホームは薬でなく、人間性を心で治すところであると思う。入所してきた利用者は、病院で薬漬けになって廃人のように無表情になっている。人の髪の毛をひっぱったり、つばを吐き、人を見ると険悪になる。暴言、暴力で手がつけられない。こんな父親を見て昔は穏やかな人だったと息子は泣きながら話しをする。様子を見ながら薬を抜いていき、根気強く接していく職員、自分は殴られても他の利用者を守らなければならない。こんな人が落ち着き、自分の食事をする姿を見て、医師も驚き、家族は利用者の姿を見て、信じられない程落ち着いた姿に感謝する。職員は利用者に関心と信頼関係が持てるまで、あの手この手で利用者に接し、心穏やかになる日を楽しみにして人間回復に努めている姿は尊いものである。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1、自主評価について…：開設から長年ホーム長を務めた職員が、2年前に定年で退職し、新しく社会福祉協議会で福祉を経験した人が入ってきたが、当初はグループホームに手間取ったこともあったろうが、現在は完全に定着し、このホームに馴染んできた。全部の職員が理念に示す目標を共有して、業務をこなしている。</p> <p>2、全体的に見て…：地域との関係も良くなり、地域の方々から信頼を得るようになった。老人クラブの人が、グループホームは姥捨て山じゃないよと地域の高齢者を連れて見学に来てくれた事もあったそうだ。前にあった偏見の目が不思議なようだ。今では地域に密着したホームとなり、地元からも歓迎されている。このような環境から、地域の人のニーズに応えようと、小規模多機能ホームの併設に踏み切った。グループホームの3人の通所介護も始めた。地域密着型サービス提供事業者のモデルになるよう期待したい。</p>		